

おーい図書館

8月7日(木)

教育長と懇談 しました

生涯学習本部長と企画管理室長が同席し、「おーい図書館」からの参加は5名でした。

今年4月からスタートした「第二次実施計画(会報No.86参照)」について、また「教育改革市民懇談会」について質問しました。

――

問 第一次実施計画では「生涯学習会館建設事業―平成14年度着手」とあったが、第二次実施計画では「生涯学習会館構想研究事業―構想を研究・検討」となったのは、なぜ？

答 急激な財政の逼迫(4年間で200

No.87

発行
代表
おーい図書館
青木和子
本木牧子
TEL 0477-311-0886
194-416

億円不足)で、大規模プロジェクトは時期の見直しが必要。行政改革の中で、教育も例外ではない。

「研究・検討」は、企画管理室が中心になり、H12年図書館策定の「中央図書館建設基本構想」をも参考にして出発点に戻って、ハード・ソフト両面から考え直すようとしている。特にソフト面の研究が大事。分館の見直しも必要。土地は、市有地を有効活用したいが、売地も対象にと考えている。

問 「大学との連携による生涯学習推進事業」が初めて盛り込まれ、懇談会答申にも「市内にある大学との連携」とあるが…？

答 「連携」については、以前から話があった。市内には、聖徳大・千葉大・日大歯学部があり、平成16年度には新松戸に流通経済大が開校する。具体的計画はまだ無いが、大学との連携手段として情報の提供・交換があり、流経大は、その中の一部として図書館の開放を意図しているようだ。松戸市もそれを要望している。

公共図書館と大学図書館は目的が違うので本の品揃えも違う。大学にある専門書に期待している。流経大招致にあたって、市は金銭的援助は考えていない。

問 懇談会答申の「早急に取組むべき課題」に「中央図書館機能を持つ施設」とあるが…？

答 「生涯学習会館」と言い替えてよい。

「教育情報センター」が図書館と併設で平成15年4月にスタートしているが、図書館建設の代替案

ではない。

機械の占める比重が高くなり、本は不要という考えもあるが、本とコンピュータは本質的に違う。函輪で行くべきだ。

今春、会で実施した「図書館アソシエイト」の「自由に意見をどうぞ！」という欄だけを、そのままコピーして届けました。

日常的に図書館を利用している市民の意見は、利用しない人のそれと比べて、最も切実なものと考えます。市民の生の声に真摯に耳を傾けて頂きたいと思えます。

(報告 青木 和子)



投稿

図書館の

民間委託問題について

伊藤和子

常世田氏のお話を聞いて、図書館という扱いは、非常に有機的なサイクルで動いている場だなあと、痛感しました。その働きのどれひとつ欠けても、全体が回転しなくなる。

もちろん、他の工場システムでも同じでしょうが、ロボットを使うことができない。一部が不調になっても、部分のチェンジが利く。その一連の動きの中に感情は別に入らないと思えます。しかし、図書館の場合は、対象が人間であるし、それも、外側ではなく、内面・精神の領域に関わる仕事だと思ふのです。少々大げさに言いますと、本

を借りに来た子どもが、その本を読むか！読まないか！によって、その子の生き方が変わるかもしれないでしょう？図書館の窓口というのは、それ位大事な場だと思っています。

子どもの頃、図書館をのぞいた事も無い、本も読んだ経験のない若い人たちが、派遣会社から、何の教育も受けずにいきなり来て、一体どの部門で働けるのでしょうか？ハンバーガーを一ヶ一ヶ売ると同じ感覚で、時間給を稼げばOKと言うのでは、あまりに情ない。

委託の意味も調べず、実施後の変化も予想せず、住民に知らせもせず、とに角、世論を聞いた振りをして、「お上の言う通りによよ」という姿勢は、どこかの地方行政ともそっくりだし、この風土的人質は、江戸時代から変わっていないでしょう。

しかし、もうそろそろ知的所有物としての図書館の在り様を考えて欲しい。

きちんと運営されて行くためには、一冊の本に対して、貸し出しカードから始まり、希望、内容の説明、読んだ人の満足度までと、相手は生身の人間なのです。だから、館員には、いわばプロの職人芸を持つ人が必要なのであって、そういう人を養成するのが行政の仕事であり、税金はそういう事に使って欲しい。館員の質が高まり住民が誇りを持てる図書館を作れば、その街の知的水準は、必ず上るはずだ。

図書館という、人間の心に対応する場に、安易に民間委託を持ち込み、書類上一億円節約されたとしても、今後職員たちには、人間関係の煩わしさが増えるでしょうから、その結果、医療費が増大すれば、元も子も無くなると思いま

すが、ね……。機械的に処理できる部署と、そうでない処を、深く考慮し、未来に禍根を残さないよう、慎重に取り扱って欲しい問題だと、つくづく考えさせられました。



今ふたたびのラブレター

(浦安図書館を見学して)

梁・木村 眞喜子

20年近く前、新聞の催事案内の記事に、浦安公民館の講座の案内がよく載っていました。引越して来たばかりの松戸の町内で、子育てをする中、その内容は、近ければ行ってみたいと思ふものでした。今回(注々月11日)の参加で、やっと浦安という文化拠点に辿り着いたとい

う思いです。青木さんに「感想文書いてね」と言われ、あゝそれはラブレターになりさう……と思いましたが、具現化した知性へのラブレター。最近あまり経験することのない部分の感動です。

本を貸し出すことは、図書館の仕事の一部で、市民の必要な情報を提供し、人類の知識・情報を共有化すること、市民の自立を助けること、自立した市民を助けることを仕事の本質としていふことに背筋が伸びるようでした。日本国憲法と教育基本法にある主権在民の精神が、図書館行政サービスにゆきわたっているのです。自己責任を問われることの多い昨今、ならび、どれだけの自己判断能力をつけられる人間に、また、状況になつていくかが問題です。人間として言語を獲得する能力を養うことを基盤として、専門的知識・情報を、収集・保存・開示し、市民の

良きパートナーに、図書館が、な
くうる事を知りました。

けっして、本と「箱」だけでない

図書館サービス。市民と共に問題
解決を見出してゆけるソフトウェア

サービス。21世紀に入り、ますます

すIT化され、情報の流れに加速

が増し、あたかも情報に賞味期限

があるかと思われるほどです。そ

して、情報の集積が知識として定

着するのを待っていられない個人

の現状(仕事など)があるとき、

浦安図書館のような働きは、どい

だけ役に立つかわかりません。

現在の疲弊した社会。市民が情

眠から覚めて、愚民化を少しでも

払拭するためにも、図書館は画期

的な拠り所になるでしょう。

過年、ベストセラーになった「人

間を幸せにしない日本というシス

テム(カレル・ヴァン・ウォルフレン

著、「毎日新聞社」)から脱却し、

人間を幸せにする浦安図書館と

いうシステム」へ、日本の文化
風土が転換していくことを、心
から願って止みません。

まずは、松戸の図書館から...

事務局より

◎9月市議会(9/3(水)~9/24(水))

吉野信次議員、武笠紀子議

員が、一般質問で「図書館」

を取り上げました。多数の傍

聴ありがとうございました。

9月4日(木) 吉野議員

図書館全搬について

9月10日(水) 武笠議員、

おはなしキャラバンに

ついて



◎市議員決算委員会(9/16(水)~9/19(金))

吉野議員が「決算委員」に就

任し、教育関係で「図書館」を

取り上げます。傍聴をよろしく

お願い致します。

9月17日(木)AM10時 予定

ふるって
参加ください!

◎定例会

神惇子さん(元松戸教育改革市

民懇話会公募委員)のお話を聞

く

「懇話会報告、中国東北部(旧

満州)の村での交流など」

知られざる歴史についての

大変貴重なお話を伺います

期日 9月20日(土) P.M. 2:00~5:00

会場 明市民センター 会議室